



月刊美術 2018年12月号

今月の注目展にて

九鬼匡規個展をご紹介します

今月の注目展
Part.2
⑨

九鬼匡規個展 あやしの繪姿式 — 銀座かわうそ画廊(京橋)

もののけ系美女の妖力



風神之繪姿(ふうじんのえすがた)
6M(41×24.2cm)
和紙にアクリルガッシュ、胡粉、ジェッソ



文車妖妃之繪姿(ふぐるまようひのえすがた) 8M(45.5×27.3cm)
和紙にアクリルガッシュ、胡粉、ジェッソ

くまざちか

2016年より本格的に活動を始める。17年銀座かわうそ画廊主催「かわうそ新人賞」佳作。グループ展、アートフェアに参加。関西在住。

九鬼匡規個展 あやしの繪姿式

会期 — 12月8日(土)～14日(金)

水曜休廊

12時30分～19時

(最終日は16時まで)

会場 — 銀座かわうそ画廊

東京都中央区京橋3-6-21

十合ビル3F

☎03(3535)3931

同画廊主催の「かわうそ新人賞2017」で佳作を受賞。同年の初個展でコレクターの大きな支持を受けた九鬼匡規。

大学では経済を学び、サラリーマン生活を送る傍ら妖怪や怪異、怪談へ強い関心を寄せ、雨月物語などの江戸期の怪異小説に登場する「あやし」をテーマに、独学で絵を描いて研鑽を積んできた。

物語世界を大切に、現代的センスで、登場人物を美しくせつなさを込めて描いていくのが九鬼流。すでに海外からの作品オファーも受けて、制作も一作ごとに深化している。

2回目の個展となる本展では、物語から一人歩きして絵に現れたような、妖力を操る美女たちを中心に発表する。妖怪と呼ぶには可愛すぎる、もののけ系美女が会場を飾る。